

建設業における労働災害発生状況について(令和8年6月末速報値)

北海道労働局労働基準部安全課

令和8年6月末時点の建設業における死亡又は死傷災害人数は速報値で死亡災害人数6人、死傷災害人数292人となっています。昨年同時期(令和7年6月末)での速報値は死亡災害人数8人、死傷災害人数310人でしたので、昨年と比べると死傷災害、死亡災害ともに減少しています。

死亡災害6人のうち4人が「墜落、転落」による死亡災害であり、引き続き、「墜落、転落」をはじめとする三大災害の防止対策の徹底を図るほか、昨年から死亡災害が散見される建設機械等の転落又は転倒による災害に係る対策についても徹底を図る必要があります。また、外国人労働者の死傷災害が増加していることから、やさしい日本語や母国語による安全衛生教育を実施し、作業指示や守るべきルールについては具体的な内容とすることも必要です。

1 死亡災害発生状況

死亡災害の事故の型別内訳は「墜落、転落」4人(うち2m以上から2人、2m未満から2人)、「崩壊、倒壊」2人です。

事業場規模別の発生状況では10人未満の事業場が4事業場、10人以上29人の事業場が2事業場となっています。

被災者の経験年数別では5人が経験年数10年以上と経験年数の長い労働者が被災していました。

発生月	時刻	業種	規模	事故の型	起因物	災害の状況
2	10時台	建築工事業	10人以上29人	墜落、転落	仮設物、建築物、構築物	被災者は、自社の2階建て倉庫(一部平屋)の平屋部分の屋根(傾斜約13度)に被災者らが登り雪下ろし作業をしていたところ、屋根に積もっていた雪が滑り、足をすくわれ、約1.5m下方の雪山上に墜落し、当該屋根から落ちてきた雪に全身が埋まったもの。
2	10時台	建築工事業	10人未満	墜落、転落	仮設物、建築物、構築物	被災者は、牧場厩舎の外壁腐食部分の修繕作業において、わく組足場の3層目で厩舎外壁のベニヤ板を取り外し、木枠のほこりや汚れをスクレーパー(へら)で除去していたところ、バランスを崩し、約5m下の地面に墜落したもの。
4	11時台	建築工事業	10人以上29人	崩壊、倒壊	仮設物、建築物、構築物	被災者ら2名は、芯材(H鋼)と土留め板で構成された既設の土留め壁に沿って掘削された溝の内部で、合板による土留め壁を設置する作業を行っていたところ、既設の土留め壁が崩壊し、被災者1名が土砂に生き埋めとなったもの。

発生月	時刻	業種	規模	事故の型	起因物	災害の状況
3	9時台	木造家屋建築工事業	10人未満	墜落、転落	動力運搬機	木造住宅の新築工事現場において、被災者がトラックの荷台（荷台高さ約0.8m、あおり高さ約0.5m）で作業を行っていたところ墜落したもの。
4	11時台	建築工事業	10人未満	崩壊、倒壊	仮設物、建築物、構築物等	ブロック塀の解体工事現場において、間知ブロック（高さ1.0m）の上に積み上げられたコンクリートブロック（高さ1.3m）の解体作業中、被災者が当該塀の補強用の鉄筋を切断したところ、コンクリートブロックが倒れて下敷きとなったもの。
5	16時台	建築工事業	10人未満	墜落、転落	仮設物、建築物、構築物	被災者は、アパートの解体工事に伴う外壁サイディングの撤去作業において、鋼管で組み上げた飛散防止養生の水平材を伝い作業位置を移動していたところ、バランスを崩して約7m下の地面に墜落した。

2 死傷災害発生状況

（1）工種別事故の型別災害発生状況

死傷災害の工種別内訳は土木工事業 92 人（31.5%）、建築工事業 140 人（47.9%）、その他の建設業 60 人（20.5%）となっており、建築工事業が、最も多く発生しています。

主な事故の型別では多い順で「2メートル未満からの墜落、転落」60 人（20.5%）、「2メートル以上からの墜落・転落」39 人（13.4%）、「転倒（滑り）」36 人（12.3%）となっています。

	建設業全体	土木工事業	建築工事業	その他の建設業
2メートル以上からの墜落・転落	39	8	23	8
2メートル未満からの墜落・転落	60	18	29	13
その他	1		1	
その他の転倒	3	1	2	
その他の動作の反動、無理な動作	13	7	4	2
はさまれ、巻き込まれ	33	12	16	5
激突	13	6	6	1
激突され	21	5	13	3
交通事故（道路）	8	4	1	3
切れ、こすれ	25	6	14	5
転倒（つまずき）	9	5	1	3
転倒（もつれ等）	4		3	1
転倒（滑り）	36	14	12	10
転倒（踏み外し）	3	1	2	
動作の反動、無理な動作（転倒もどき）	2		1	1
飛来、落下	11	4	5	2
崩壊、倒壊	10	1	6	3
有害物等との接触	1		1	
総計	292	92	140	60

(2) 工種別主な事故の型別起因物別災害発生状況

墜落・転落	建設業全体	土木工事業	建築工事業	その他の建設業
脚立	11		6	5
はしご	11	5	3	3
トラック	11	3	5	3
屋根、はり、もや、けた、合掌	11		10	1
足場	10	1	8	1
階段、棧橋	8	1	4	3
建築物、構築物	5		3	2
開口部	5	1	3	1
作業床、歩み板	3	1	2	
積雪、天候により凍結した床面、通路	3		3	
その他の仮設物、建築物、構築物等	3	2		1
高所作業車	2		1	1
踏み台等	2		2	
移動式クレーン	2	1	1	
掘削用機械	2	2		
地山、岩石	1	1		
その他の床面、通路の状態	1	1		
立木等	1	1		
その他の一般動力機械	1	1		
その他の動力運搬機	1	1		
その他の環境等	1	1		
その他の乗物	1		1	
コンベア	1	1		
乗用車、バス、バイク	1	1		
その他の装置、設備	1			1
総計	99	26	52	21

「墜落、転落」災害の主な起因物別内訳は、建設業全体では「脚立」、「はしご」、「トラック」、「屋根、はり、もや、けた、合掌」によるものが最多で、それぞれ 11 人（11.1%）、次いで、「足場」10 人（10.1%）、「階段、棧橋」8 人（8.1%）となっています。

転倒	建設業全体	土木工事業	建築工事業	その他の建設業
積雪、天候により凍結した床面、通路	33	14	9	10
起因物なし	4		3	1
可動な障害物	3	2	1	
固定の障害物、溝	2			2
その他の床面、通路の状態	2		2	
凹凸	2	2		
段差	2		2	
斜面	1			1
整地・運搬・積込み用機械	1		1	
トラック	1		1	
その他の用具	1	1		
階段、棧橋	1	1		
その他の一般動力機械	1		1	
荷姿のもの	1	1		
総計	55	21	20	14

建設業全体で多く発生している「転倒」災害については、6 月末の速報値では起因物としては「積雪、天候により凍結した床面、通路」33 人（60.0%）が最も多く発生しています。

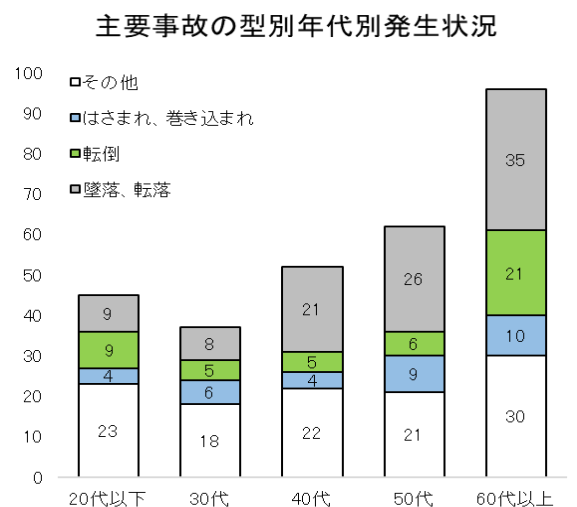
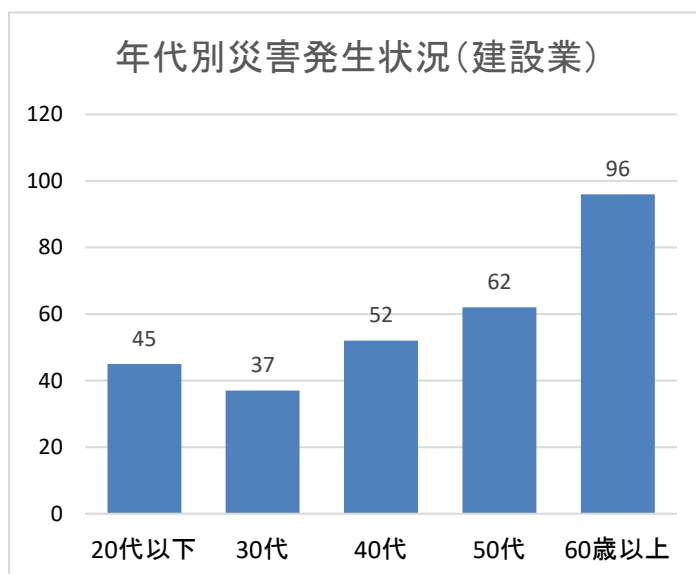
はさまれ、巻き込まれ	建設業全体	土木工事業	建築工事業	その他の建設業
トラック	3	2	1	
掘削用機械	3	2	1	
移動式クレーン	3	3		
その他の仮設物、建築物、構築物等	2		2	
金属材料	2	1		1
解体用機械	2		2	
石、砂、砂利	1	1		
高所作業車	1		1	
その他の建設機械等	1		1	
その他の装置、設備	1			1
手工具	1		1	
その他の用具	1		1	
玉掛用具	1	1		
コンベア	1	1		
その他の一般動力機械	1		1	
動力伝導機	1			1
混合機、粉碎機	1		1	
木材、竹材	1		1	
整地・運搬・積み込み用機械	1	1		
その他の金属加工用機械	1		1	
その他の材料	1		1	
機械装置	1			1
クレーン	1		1	
荷姿のもの	1			1
総計	33	12	16	5

「はさまれ、巻き込まれ」災害の主な起因物別内訳は、建設業全体では多い順に「トラック」、「掘削用機械」、「移動式クレーン」が最多でそれぞれ3人（9.1%）、次いで、「その他の仮設物、建築物、構築物等」、「金属材料」がそれぞれ2人（6.1%）となっています。

（３）年代別、経験年数別発生状況

死傷災害全体の年代別の災害発生状況では20代以下が最も少なく、60代以上が最も多くなっています。前年同期と比較すると令和8年は30代の発生数が5人、60代以上が11人増加しています。

20代以下の死傷人数45人のうち、11人は外国人労働者であり、前年同期より2人減少しましたが、全体としては外国人労働者の災害が17人と前年同期より1人増加しています。



経験年数別の発生状況は建設業全体では経験年数 1 年未満 41 人 (14.0%)、1 年以上 5 年未満 62 人 (21.2%)、5 年以上 10 年未満 30 人 (10.3%)、10 年以上 159 人 (54.5%) と 10 年以上の経験年数を有する労働者の割合が高くなっています。

経験年数別災害発生状況(292人)

